

少年と妖怪 / Shōnen to yōkai

Lan Luo, Wentao Wang

Publication Date

14-10-1900

License

This work is made available under a Exclusive rights in copyrighted work license and should only be used in accordance with that license.

**Citation for this work (American Psychological Association 7th edition)**

Luo, L., & Wang, W. (1900). 少年と妖怪 / *Shōnen to yōkai* (Version 1). University of Notre Dame.  
<https://doi.org/10.7274/24859029.v1>

This work was downloaded from CurateND, the University of Notre Dame's institutional repository.

For more information about this work, to report or an issue, or to preserve and share your original work, please contact the CurateND team for assistance at [curate@nd.edu](mailto:curate@nd.edu).

# 絶対

# なくなる！



緑が森を染めている時。

夏がやってくる。いろいろな妖怪と出会う

が。彼達のそれぞれ

聞く。淡い悲しみが

溢れていく。それは夏

東だ.....

の物語を  
ただただ  
だけの約









## Mini Project

### Relaxation

1. A small game: bring everyone a sheet of paper which size looks like 手帳。Follow the instructions below:

Write down the name you wanna grant best wishes most.

Hold the middle of the paper in your mouth.

Make a zen gesture and close your eyes.

Gently blow.

The soul of that name would be purely free.

2. Try on the mask:

We are making the mask in the manga and will invite everyone to try on the mask and take photos.

### 蛍火の杜へ 紹介

森と思えば、神社の周りに木が人を抱きしめるという感じがいます。アニメの中、よく見える森は、自然の様や匂いを表す一方、怖いものの存在する可能性もあるから、子供に恐れられます。緑川ゆきの物語の中で、森は妖怪が住んでいる場所だから、古い気がしたり、不思議なことを自然に見つけたりしたことがあります。でも、どこでも違う緑が川のように流れているので、爽やかな気持ちが出ます。

蛍火と杜は、夏しか見えない景色だから、名前からどんな物語かも知っているはずです。でも、想像以上の少年はその夏だけで存在します。6歳のとき、森の中で迷った蛍は仮

面を掛けていたギンという少年に出逢いました。ギンは蛍を森の外に連れて行ったとき、“俺は人間に触れられると、消えてしまう”と言いました。妖怪に興味がある蛍は、その日から、ギンと一緒に森で遊んだり、いろいろな妖怪と友達になったりしましたが、夏は早く終わりそうです。それから、毎夏ギンと会うことに慣れていって、蛍はだんだんギンが好きになったけど、触れては絶対いけないと覚えていたらので、悲しい気がしました。それで、自分が大人になってきたけど、ギンは何も変わらなかったんです。高校生の夏、ギンは“妖怪達の夏祭り”に二人で行ったらどうかと蛍に聞きました。手と手をぬので結んだ後、ギンは仮面を蛍に掛けてあげてから、やさしくキスをしてしまいました。

もしここまで終わったら、たぶんあまり悲しくないと思います。でも、人間の子供もこのお祭りにこっそりして、妖怪のように行きました。ある子供がもうすぐ転ぶ時、ギンはあの子を手伝って、彼に触れてしまいました。ギンの手は消えていきました。”来い 蛍 やっとおまえに触れられる” 最後までやっとな抱きしめられた二人、星が瞬く夜に別れました。

この物語について、一番特別なのは淡くて、爽やかな気持ちです。悲しい結局だけど、珍しい思い出になっていくから、蛍にとって何も比べられない記憶です。夏しか存在しないギンという少年を追いかけたら、蛍は優しい人になるだろうを思います。